ＢＣＬファンの交流誌　No.8

ආයුබෝවන්.

あーゆぼーわん

お酒の特集号

2022 冬

TECSUN
LION
LAGER

もくじ

BCL とお酒と音楽と（鶏林書笈） P.1

酒と女と BCL（千石のおっちゃん） P.2

お酒がらみの愚駄くた話（英国なんちゃって BCL おばさん） P.4

いっしょシリーズvol. 8

「モンゴルの声」といっしょ（植村 昭男） P.10

まあるいあんてなだらけ（えぃみぃ） P.14

日本酒ラベルギャラリー（TKD 放送研究会） P.19

上越には旨い酒がある（なんばなな） P.24

2022 年 9 月 24 日に

「第 4 回にいがた上越BCLの集い」を開催したんだよ。 P.27

哀愁の秋葉原に電磁波が降るのだ。（せきやま☆れいわ） P.30

ギャラリーate P.31

ギャラリーKURO P.32

BCLと
お酒と
音楽と

鶏林書笈

若い頃は焼肉を食べながらマッコリ (막걸리)を呑んだり、飲み会でサワーやワインを飲んでいましたが、10 年位前からアルコール類を全く受け付けなくなってしまい、今はノンアル生活をしています。

それでは“BCL とお酒”のネタなどないだろうと思われた方もいらっしゃることでしょう。しかし残念ながら、ちゃんとディープネタがありますので、今回はそれをお話をしましょう。

かつて自由中国之声(現 台湾国際放送)とラジオ韓国(現 KBS WORLD)のヘビーリスナーだった筆者は毎日、この 2 局を聴いていました。

ニュースや時事解説、文化番組も興味深く聴いたのですが、やはり一番好きだったのは音楽番組でした。今でこそ、K-Pop とか C-Pop とかいう名称で日本国内でも韓国や台湾の音楽を簡単に聴くことが出来ますが、70～90 年代初めは現在のようにネットが普及していなかったので現地の音楽を聴く手段は現地からのラジオ放送とかごく限られていました。

そうした状況下だったので放送を聴いて韓国や台湾の音楽を知ったのですが、すっかりはまってしまいました。もともと音楽にはさほど関心は無かったのですが、韓国や台湾の音楽には強く惹かれました。民謡や伝統音楽、歌曲そして大衆歌謡～Pops ですね、どれも好きでしたが、親しみやすかったのは Pops です。それゆえ、この時代の台湾、韓国のヒット曲は殆ど知っていますし、この時期ヒットした韓国 Pops は筆者のカラオケの定番です。

さて、今回のテーマは“お酒”ですので、この頃に発表された台湾、韓国曲の中から、“お酒”を歌った曲を 2 曲紹介しましょう。

♪将進酒　羅大佑 作詞作曲、歌
https://youtu.be/ifHX56NS8WA

８０年代初めの頃の台湾 Pops といえば、日本の歌謡曲やアイドルソングみたいなものが大半でした。そうした中、ロック・バラード曲を掲げて登場した羅大佑(ルォタァユゥ）の存在は衝撃的でした。彼のデビューアルバムの収録曲はどれもこれまでの台湾曲とは異なるもので、筆者は一目ならぬ“一聴惚れ”してしまいました。この歌が発表されたのは 1982 年、既に 40 年も経つのですね。今回この原稿を書くにあたって YouTube で彼の歌を聴いてみたのですが、やはり名曲だなぁと改めて感心しました。

彼のデビューアルバムの中にちょうど“お酒”を歌った曲がありましたので紹介しましょう。曲名をご覧になって、どこかでみたようだなと思われた方もいらっしゃることでしょう。そうですね、李白の詩に同名の作品があります。内容はもちろん異なっていますが。ただ、両詩ともタイトル通り“酒を勧める”内容になっています。

♪酒　　李南伊(イーナミ)作詞作曲、歌
(술　이남이 작사 작곡、노래)
https://youtu.be/899Ot3CTqtc

その昔、「日本全国酒飲み音頭」なんて歌が流行ったことがありましたが、この歌はそれの韓国版といった感じです。“雨が降っては一杯、雪が降っては一杯……お前は真実だ、お前は嘘がない”こんな感じで友人に会った時も寂しい時もうれしい時も酒一杯飲もうじゃないかという内容の歌です。

メロディーは韓国の伝統音楽の旋律を用いていて土俗的で個人的には好きなスタイルです。

この曲が発表されたのは 1989 年、ソウルオリンピックの翌年です。

同じ“酒”をテーマとした曲ですが、この 2 曲は対照的です。「将進酒」はしっとりとしたバラード風で、静かで内省的という感じなのに対し、「酒(술)」は賑やかで楽しもうという雰囲気です。一人でじっくり自分を振り返る時も友人、恋人等々と一緒の時もお酒は付き物なのですね。

羅大佑、李南伊とも８０年代を代表する台湾、韓国のロックミュージシャンです。本稿を執筆する時、この二人についてネット検索してみたところ、李南伊は 2010 年に肺癌で亡くなっていました。このところ、自分が好きだった韓国や台湾ミュージシャンたちの大半が引退していたり、亡くなっていたことを知りショックを受けています。彼ももう 12 年も前に亡くなっていたと思うと言葉もありません。

反面、羅大佑は、昨年(2021)第 32 回金曲奬で特別貢献賞を受賞していました。また、2019 年にはハーバード大学で「中国語流行音楽の 40 年」と題する講演もする等、現在も活発に活動しています。

前述したように、今は日本でもネットを通じて容易く、そして良い音質で台湾や韓国の音楽を聴くことが出来ます。しかし、筆者はそれらには全く関心がありません。自分がそれなりの年齢になり、音楽に対する情熱がなくなったせいもありますが、今の K-Pop や C-Pop にはかつての韓国や台湾の曲が持っていたようなオリジナリティーやパワーが感じられないためです。日本の同種の音楽と大して違わない、ゆえに何も国外に求める必要もない～筆者の場合、日本の流行音楽に全く関心が無かったので、音楽そのものに関心がなくなってしまいました。

逆にそれゆえに日本で K-Pop や C-Pop が親しまれているのでしょう。音楽・ポップスもグローバル化したわけですが、現況をみるとグローバル化とはつまらぬものだと個人的には思ってしまいます。

話が逸れた挙句に愚痴っぽくなってしまいました（苦笑）。

ただ、これを機に筆者の愛した昔の韓国、台湾曲をまた聴いてみようと思います。

酒と女と BCL

千石のおっちゃん

※あくまでもフィクションです

僕は飲み会の 2 次会、3 次会で外国出身の女の子がいる店に行くことがしばしばあった。特定の女の子に興味があったわけではなく BCL 的な興味があってのことだ。もともと僕は外国に興味があった。だけど実際に外国に行くことはなかなかできない。疑似体験ではないが身近なところで外国に触れ合えるお店として楽しんでいた。

＊

「もう一軒行くか？」
温泉場で一杯やったあと、誰からともなくそういう流れになった。
だいたいこういうときはその中の誰かが「○○へ行こう」と言い出すのだが、なぜかそのときは「どこか新規開拓しよう」ということになって、タクシーの運転手さんに「この近くで変わった店ない？」などというノリで案内されたのが台湾の女の子がいる店だった。
さて、店に入ったはいいものの、女の子たちは日本語が話せなかった。どうにも落ち着かないので僕は、中国語で「自由中国之声」と言ったら「自由中国」は理解してもらえたらしくて女の子同士で盛り上がっていた。肝心な「自由中国之声」は理解してもらえなかったようだ。
台湾のことで話題にできるようなことはほとんど知らなかった。もう少し自由中国の声をよく聞いて台湾についての知識があると良かったなと思った。そうだ、玉山だ。富士山より高い「新高山」だ。台湾料理の話題でもよかったな。
一緒に言ったメンバーからは不評だったが、それでも彼らによると僕は盛り上がっていたように見えたらしい。

＊

「女の子がいるところに行きましょう」
「いいですね」
そんな流れで行ったフィリピンパブには、日本語がある程度わかる子がいた。
「△△サン、ヒサシブリね～」
「来たよ～」
実はこの店は初めてではない。
フィリピン語の簡単な言葉を教えてもらった。そもそもはスペインの植民地だった関係で

フィリピン語（タガログ語）はスペイン語の影響を受けているという話だった。
フィリピン語は全然知らないが、以前買った「世界の放送局」のテープの中に収録されていた Voice of the Philippines からのメッセージに登場していた単語の「マブハイ」を使ってみたところ喜んでくれた。
「何か英語の歌、歌って！」
僕はビートルズの歌を何か歌った。
彼女らも、日本の知らない歌を聞くよりは知っている歌を聞いた方が楽しいのかなとふと思った。
あとは普通にデュエット曲を仲良く一緒に歌ってもらった。どんどんお酒をついでくる。飲みすぎないように気を付けないといけない。どんどん飲ませて新しいボトルを入れさせる手口だ。
「私たちも何か飲んでいい？」
「いいよ」
こうやって散財するのである。

＊

あるとき、悪友に誘われてタイ出身者のいるお店に出かけた。
タイ出身の女の子は日本語がわからない。英語も通じない。どうすればよいのかわからない。ニコニコしてお酒を注いでくれるのでもない。
どうやら店からは日本の歌をいくつか覚えさせられているらしい。「逢坂川」を歌ってくれたのでお返しに僕も歌を入れた。渡哲也なら定番は「くちなしの花」と決まっている。
話ができないのでなんとかコミュニケーションがとれないかと思案した。
数の数え方を教えてもらうことにした。タイ語の数字は中国語の影響を受けているらしい。３は「サン」、８は「パー」９は「クー」１０は「シップ」だ。タイ語の放送を聞く機会はあまりないが周波数アナウンスを聞く参考にはなる。
なんで言葉が通じない店にあえて行かないといけないのだろう。まあ、内輪の話に口を挟まれるのも嫌なときもあるが、それはそんなところで聞かれてまずい話をしゃべること自体が間違っている。なぜこんな店が存続できるのだろうと不思議に思っていたが、アヤしいサービスをやっているという噂もあった。
会社の同僚は僕のことを女好きだと思っているようだが僕はあくまでも情報収集に行っているだけだ。
あくまでも目的は情報収集なのだ。

お酒がらみの愚駄ぐだ話

英国なんちゃって BCL おばさん

ビール以外はたいてい何でもおいしく飲みますが、主に飲むのは日本酒とワインです。アルコールに弱い体質のようで、すぐに顔が真っ赤になります。日本酒なら一合、ワインならグラス一杯あれば十分な小酒飲みです。

苦いのが嫌いで、ビールはほとんど飲みません。就職したばかりの頃、職場の飲み会で「えーっと、とりあえず皆さんビールで乾杯ということでいいですか」と言う幹事さんに「すみません、ビールは苦手なのでお酒をお願いしてもいいですか」と言って、場をざわつかせてしまいました。当時は女性が日本酒を飲むというだけで珍しがられ、量はそれほど飲まないのに「酒豪」呼ばわりされて困惑しました。

ワインをよく飲むようになったのは 25 年ほど前、仕事で南オーストラリア州アデレードに一年半余り滞在した時です。南オーストラリア州はオーストラリア最大のワインの産地で、いろいろなワインが容易に手に入るので、手頃な値段のものを酒屋やスーパーで買って飲んでいました。アデレードから一日バスツアーで、郊外のバロッサ・バレーのワイナリー巡りに何度か出かけて見学や試飲を楽しんだのも良い思い出です。そんなわけで、英国で暮らす現在でも、ワインを買う時にはオーストラリア産に手が伸びてしまうことがよくあります。

英国でも日本酒はもちろん買えますが、値段が高いのでほとんど飲まなくなりました。2015 年だったか、日本の友達から「日本では『獺祭』が大人気で、入手が困難な『幻の名酒』になっている」と聞いてまもなく、英国南部の都市ブライトンに出かけた時に日本食料品店で獺祭を見かけました。「おーっ！」と思ったものの値段を見て「ひーっ！」となって、買うのは諦めたのでした。後日「無理してでも買って、飲んでみればよかったかなぁ」と後悔の念を募らせたりもしたのですが、翌年帰省した時に、なんと実家で獺祭のセットが私を迎えてくれました。

妹のお友達が、私がやたらと獺祭を飲みたがっているのを知って、酒屋を探し回って手に入れてプレゼントしてくれたそうです。英国に持って帰るのは難しそうだったので、（小酒飲みの私ではありますが）日本にいる間に全部ありがたく飲ませていただきました。おいしゅうございました。

英国で暮らすようになってからよく飲むようになったのはサイダー（りんごの醸造酒）です。日本では「サイダー」というと別の飲み物があって紛らわしいので、フランス語の「シードル」と呼ぶのが一般的なようですね。英国はサイダーの生産量と消費量が共に世界一だそうで、スーパーにも大手メーカーの瓶サイダーや缶サイダーがずらりと並んでいます。また、地方に行くと、小さな醸造所が作る地サイダーみたいなものもあって楽しいです。

夫がお酒をほとんど飲まず外食もあまり好きではない人間だし、私はビールが苦手なので、英国住まいなのにパブへはめったに行きません。

ちょっと遠出した時などにたまにパブに入ることがあると、たいてい飲むのはサイダーです。

夏ならばピムスというカクテルを注文することもあります。ジンがベースの「Pimm's」というリキュールをレモネードで割ったもので、きゅうりやいちご、オレンジなどを小さく切ったものが入っていることが多いです。英国では夏に大人気の定番カクテルです。

話が変わりますが、お酒の風味が効いたお菓子も大好きです。きっかけは、実家のある岡山県倉敷市の「西洋菓子工房ふじわら」のブランデーケーキでした。初めて食べたのは中学生か高校生の頃だったと思うのですが、とにかくおいしくて、以来大ファンです。

自分で作るお菓子にも時々お酒を使います。たいていは、ちょっと手がすべってお酒がグラスに入ってしまい、お菓子を作りながらチビチビすする羽目になります。

いちばんよく使うのはラム酒で、シンプルなパウンドケーキが定番ですが、ラム酒に漬け込んだドライフルーツを入れたり、栗を入れたりするのも好きです。

夫の誕生日にラム酒がたっぷり入ったチョコレートケーキを作ったこともありました。

ブランデーは、ラム酒と同じくパウンドケーキに使うほか、ババロアに入れたこともありました。

数年前、夫が早期退職した際に、贈り物のスコッチウイスキーを持って帰ってきました。同僚の方たちは夫がお酒をほとんど飲まないことを知っていて、英国流ジョークのつもりでプレゼントしてくださったようですが、まさか妻が飲むとは思いもしなかったでしょう。これも一部、パウンドケーキやアイスクリームに化けました。

コアントロー（オレンジのリキュール）はオレンジパウンドケーキや、レモンケーキに使ったり･･･

･･･オレンジ入りのチーズケーキにも使います。

キルシュ（サクランボの蒸留酒）を使って、ドイツのお菓子「シュヴァルツヴェルダーキルシュトルテ」を作りました。何だかおしゃれな響きの名前ですが、覚えられません。和訳すると「黒い森のサクランボケーキ」みたいな意味だそうです。フランス語ではフォレノワール、英語ではブラックフォレストケーキと呼ばれる、大人の（？）チョコレートケーキです。

さて、BCL ファンの交流誌『あーゆぼーわん』への投稿なので、最後にラジオの話をこじつけようと思い、ネタ探しのために「radio drink UK」というキーワードで検索してみたら･･･

RADIO
ME LONDON ROOFTOP

･･･トップに「Radio Rooftop Bar」というのが表れたので「えっ、そんなラジオ局があるの？」と一瞬思ったのですが、「ME London」というロンドンのホテルの 10 階（日本の数え方では 11 階）にあるバーのことでした。ウェブサイト（https://radiorooftop.com/）に載っている

写真を見てみると、屋上からの素晴らしい眺めが売りの、高級感あふれるレストラン・バーのようです。

バーの名前の「ルーフトップ」の由来はそれで簡単に納得できましたが、「ラジオ」の由来は何なのかという素朴な疑問が湧きました。ほんのちょっとですが、調べたことをまとめると･･･

現在ホテルが立っている場所には、かつて「Gaiety Theatre」という劇場がありました（第 2 次世界大戦中の空爆で大きな被害を受け、1960 年代に取り壊されました）。1904 年に劇場のお客さんを当て込んで、レストラン兼ホテルが劇場の隣に建てられました。しかし、（事情は全然わからなかったのですが）その後 1912 年から 1933 年までマルコーニ社がここに本部を置いたため、この建物は（高級マンションになっているらしい）現在でも「マルコーニ・ハウス」と呼ばれています。ここにあったスタジオからは、英国で 2 番目に定期放送を始めたロンドンのラジオ局「2LO」が、1922 年 5 月 11 日に最初の放送を行ったそうです。後に BBC が 2LO を買収して、1922 年 11 月 14 日から毎日の放送を始めました。

･･･というわけで、そのあたりが ME London のバーの名前の「ラジオ」の由来なのかなと思います。ちなみにホテルのロビーに設置されているラウンジの名前も「マルコーニ・ラウンジ」です。

「おばさん、それならラジオ・ルーフトップ・バーに取材に行け！」という秋葉原 BCL クラブの皆様の声が聞こえるような気がしますが、このバーには「スマート＆グラマラス」という恐ろしい服装規定があり、~~着ていく服がない~~ カジュアル系ファッション志向の私が足を踏み入れることは生涯ないでしょう。

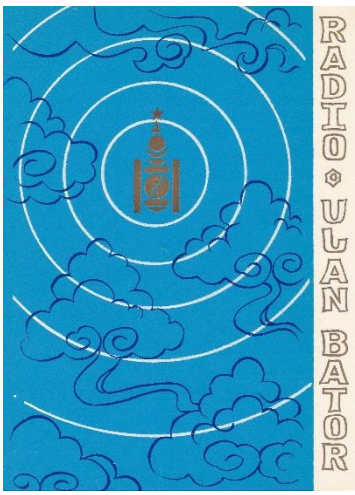
それよりも、帰省したら、倉敷市本町にある焼き鳥の「くらしき高田屋」で皆様と集えたりするといいな･･･と夢見ています。

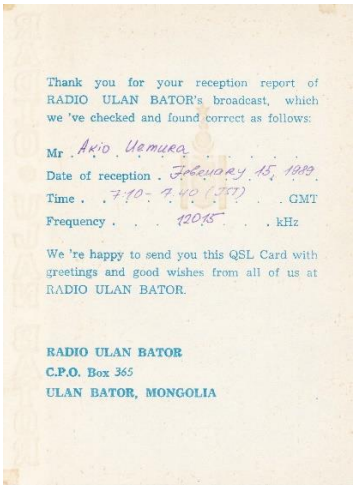
いっしょシリーズ　Vol.8

「モンゴルの声」といっしょ

植村 昭男

私がモンゴルの声を聴き始めたのは、日本語放送が始まってひと月近く経った 1989 年 2 月。月刊誌「ラジオの製作」1989 年 3 月号のグラビアページで、山田耕嗣さんが書かれた日本語放送開始の速報記事を読んだ事がきっかけだった。当時はラジオウランバートルの局名だったが、この号の BCL ページを見ると、BBCやDW、ラジオオーストラリア、カナダRCI、そして「あーゆぼーわん」といえば忘れてはいけないスリランカ SLBC（この頃のお便り宛先は陽子さんのご自宅）もまだ日本語放送を行っていた。既に BCL ブームが過ぎ去っていたとはいえ、今から思えば溜息が出る位、豪華な海外日本語放送のラインナップ！




Thank you for your reception report of RADIO ULAN BATOR's broadcast, which we've checked and found correct as follows:

Mr. Akio Uemura

Date of reception. February 15, 1989

Time. 7:10-7:40 (JST) GMT

Frequency. 12015 kHz

We're happy to send you this QSL Card with greetings and good wishes from all of us at RADIO ULAN BATOR.

RADIO ULAN BATOR
C.P.O. Box 365
ULAN BATOR, MONGOLIA

それ以来、必ずしも熱心とはいえないものの、ラジオウランバートル日本語放送を聴いていたが、2014 年のある日、放送で日本語課スタッフが来日し、10 月 11 日(土)に東京、13 日(月･祝)に大阪でリスナーの集いを開催とのお知らせ。聴いた瞬間、「行きたい！」と思ったものの、残念ながら両日とも既に予定が。

ただ 12 日は所用で大阪市内にいるので、もし局の皆さんが集い前日にご来阪されていたらお会いできるかもという淡い期待をしつつ、10 月 6 日にお伺いのメールを送る。9 日に「12 日午前、大阪へ出発する予定です。12 時頃、大阪駅の近くでお会いしましょう」と携帯電話番号が添えられたメール、11 日の夜には嬉しい事にボルガンさんから直接「明日、楽しみにしています」との電話をいただく。12 日朝にはグァツェツェグさんが、東京駅の新幹線出発時刻を電話くださり、新大阪駅の新幹線中央改札口で皆さんをお迎えする事に。

そして待ちに待った 2014 年 10 月 12 日(日)12 時前、新大阪駅でボルガンさんやグァツェツェグさん、スタッフの皆さんと感激の対面。

左からカメラマンの方、グァツェツェグさん、ボルガンさん、バヤルさん

この時はモンゴルの声日本語放送開始 25 周年、海外向け放送 50 周年、モンゴル公共ラジオ局設立 80 周年に因んだ日本語課初のリスナーの集いという事もあり、スタッフの皆さんの熱気というか、とても張り切っている様子が伝わってきた。

お会いしたのは日本語課のボルガンさん、グァツェツェグさん、バヤルさん、金井伸子さんに、バヤルサイハン副局長、カメラマンの方の 6 人。

バヤルサイハン副局長はこの後、大阪在住のご子息に会いに行くため、挨拶をしてお別れし、残る 6 人で駅構内の喫茶店へ。

念願の「モンゴルの声一人リスナーの集い」では、ボルガンさんからの日本語課のお話や番組について意見交換、ノートパソコンでの局紹介映像上映、私が持参した自宅の受信録音を BGM にベリカードやペナントなどの返信グッズを見ながら歓談したりと、カメラマンの方に終始撮影されながらで少々緊張したが、濃密な時間を過ごさせていただいた。

それまでお会いした海外日本語放送各局の方と同様、モンゴルの声の皆さんもお互い初対面とは思えないくらいフレンドリーだった。快活なボルガンさんと金井さん、控えめで落ち着いた雰囲気のグァツェツェグさんは、放送から想像していたイメージ通りだったが、バヤルさんは声を聴いて強面な方を想像していたものの、実際にお会いすると人懐っこい話し好きのとても楽しい方だった。「この声で私に怖いイメージを持ってるリスナーの人が多いんですよ～(笑)」と茶目っ気たっぷりに話していた事は、今でも印象に残っている。

その後、バヤルさんは退局し、日本と中国へ留学して修士号を取得、現在はモンゴルで働いている。

日本語専門家として原稿チェック、番組にも時々出演していた金井さんは局の経費削減の影響で退局し、現在もモンゴル在住。その後、日本語専門家は不在となっている。

集い前に局サイトで日本語課 25 周年記念パーティーの写真を拝見していたが、実際にお会いしてみると皆さん写真よりずっと若々しい。

右端：金井さん

この時、日本語課で一人留守番をしていたジャルマルガーさんは、この年の4月16日に入局、日本育ちで日本語堪能。入ったばかりの頃は、お便りの翻訳やリスナーへの返信を担当していたとの事。現在、日本で3人の子育てに励んでいるジャルマルガーさんは、モンゴルの労働法により2015年から長期の育児休暇中で、今もモンゴルの声日本語課に在籍扱いとなっている。

皆さんのプライベートなお話もたくさん伺えた1時間あまりの楽しいひとときは本当にあっという間で、13時過ぎ、お迎えのワゴン車が到着し、ボルガンさん達は宿泊先ホテルへ向かった。その後は一日、集い準備との事で。お忙しい中、時間を作ってくださった皆さんに深く感謝申し上げたい。
ただ残念な事に翌13日は台風接近のため、吹田市にある会場の国立民俗学博物館が臨時閉館となり、大阪でのリスナーの集いは中止になってしまった。

日本語課の皆さんが帰国する17日朝、金井さんが新大阪駅での面会についてお礼の電話をくださる。大阪の集い中止を大変残念がっておられ、当日は何名かのリスナーの方に加え、モンゴル人留学生の方も多数集まっていた事、日本での最後の2日間は東京での観光と買い物を楽しんだ事などを色々とお話を伺った。そういえばグァツェツェグさんとのお話で「東京での買い物がとても楽しみです」と嬉しそうに語っていた事をふと思い出す。

大阪で日本語課の皆さんに会って以降、モンゴルの声がより近くに感じられるようになり、今も番組を楽しんでいる。局が予算面で厳しくなっている現在、難しいかもしれないが、また日本でリスナーの集いが開催される事を願っている。まだモンゴルに行った事はないが、ぜひモンゴルの声を訪れてボルガンさんやグァツェツェグさんと再会、そしてオドゲレルさんにお会いしたい。

「ウィークエンドスペシャル」でも紹介された、局から10kmほど北にあるボルガンさんの別荘の広い庭。夏季は家族でウランバートル市郊外の別荘暮らしを楽しみ、ここから局に通勤。
別荘ではガーデニングに夢中なボルガンさん。「モンゴルではお金持ちでなくても別荘を持っている人が多いんですよ」との事。

モンゴルの声　日本語放送

・放送時間と周波数　1930～2000：12085kHz
　　2200～2230：12015kHz（再放送）

・お便りの宛先　　Voice of Mongolia, Japanese Section
　　C.P.O.Box 365, Ulaanbaatar 13, Mongolia
　　＊郵送での受信報告には印刷版 QSL の返信
　　IRC1 枚同封

　　E-mail：mnb_vom@yahoo.com（日本語対応）
　　＊E-mail での受信報告には E-QSL の返信
　　返信料不要

・局ホームページ　http://www.vom.mn/ja

・番組紹介　　月～木：ニュース、モンゴルの話題
　　金、土：ミュージックゲル（土は再放送）
　　日　　：ウィークエンドスペシャル

・スタッフ　　ボルガンさん:　　1997 年入局、日本語課長
　　ミュージックゲル(金、土)、
　　ウィークエンドスペシャル(日)担当
　　グァツェツェグさん:2011 年入局
　　月、水の番組担当
　　オドゲレルさん:　　2015 年入局
　　火、木の番組担当

別荘の庭にはゲルも

番組紹介されたボルガンさんの愛犬ケニー

別荘で寛ぐボルガンさん

ま◎あ◎る◎い◎ア◎ン◎テ◎ナ◎だ◎ら◎け

by えぃみぃ

●今回の記事は前号の 3 つの記事からの続きです。
・スマホでラジオを聞くしくみを作ってみた話
・IC-705 を背負ってみようとおもったー
・PRAM”無給電ラジオ FOOPRA みたいなの”を作ってみることにしたお話

前回の記事を書いている頃はそろそろコロナも終息するかなぁなどとのんびり構えてたけど、夏になったら第7波でコロナ感染者激増！
マスク、アルコール消毒、手洗い、パーテーション設置、黙食、お出かけも控えて、、、それでも職場で陽性者が続出し、濃厚接触者（両隣と後ろの席）も自宅待機となるため欠勤だらけとなり人手不足でオニの忙しさﾋｨ💦
体力温存せんと弱ったらコロナもらっちゃうじゃん！と恐怖におののきながらの日々。ビビりのえぃみぃは 8 月上旬に早速のワクチン 4 回目接種。ふー、これでひと安心(;^_^A

しかーし！

説明書に**「予防ではなく重症化しないためのものです。」**
と書いてあるΣ(°д° lll)ｶﾞｰﾝ･･･打っても感染るんかーい(#°Д°)ｵｰｲ

とはいえ発熱しなかったら PCR 検査もしないので出勤は OK なのでヨシ(^_^;)

◎PRAM のアンテナ作り
さてラジオを持って外に出るにはオニ暑いし、涼しくなるまでにアンテナ作りをしましょう。

PRAMはゲルマラジオ＋フラフープ型ループアンテナという仕組みで無給電で安定して聞ける災害ラジオを目指した『無給電ラジオFOOPRA』のマネ＝FOO**PRAM**（みたいなの）
FOOPRA についてはこちらをご覧ください
・https://mobile.twitter.com/hoop_radio（Twitter アカウント）
・https://www.ituaj.jp/?page_id=9513（日本 ITU 協会様の紹介記事）

　ゲルマラジオの作成はちょっと置いといて（理由は後ほど）、とりあえずアンテナ部を・・・ALAM用の同軸ケーブル入りフラフープを使えばいいかと思ったけれど、それじゃぁ巻き数が少ないからアンテナにならないっぽいという事なので、フラフープの中にロングワイヤーをぐるぐると通すことにしました。

　うーん、ぐるぐる通すのめんどくさいなぁ・・・いい方法ないかなーとネットを検索していたところ見つかったLANケーブルの使用例！
LANケーブルの端っこ同士を互い違いにつなげれば長ーいケーブルをぐるぐる巻いた状態になるじゃん！これは簡単！ちょうど納戸に使ってないLANケーブルがあったから組み立てた貫通フラフープに通せば出来上がりだね^^

というわけで 100 均いっていろいろ買った。
　・フラフープ
　・ワイヤーストリッパー（被覆線の被覆をはがすヤツ）
　・ミニニッパー（フラフープの穴あけ用）

　フラフープは 4 色の部品が 2 本ずつ合計 8 本入っている。全部繋げるとまぁるくなるんだけど、単色のを2個作りたいので 4 パック買った。
ミニニッパーはさすがに 100 均ではちゃっちいおもちゃみたいなのしかなかったけど、まぁフラフープの穴あけ以外に使うこともないだろうからってことでこれにした。
ビニールはがすヤツは０．５ミリ径まで行けるみたいなのでテキトーに買ってみた。

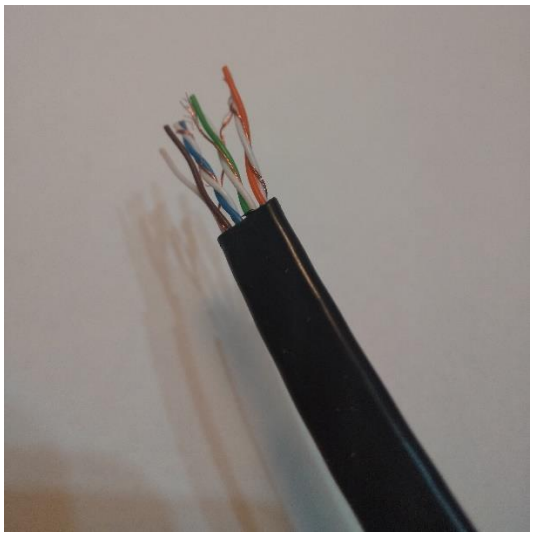
自宅に戻り、早速フラフープの継手のところに穴をあけ・・・れませんでした（T-T）

つるんっ！て滑ってささらない＞＜；
で、急きょネットで『電動ミニドリル』ってのを買った。

『ミニ』に若干不安があったけど、まぁ継手に穴開ける以外にほとんど使わないだろうし、一応DIY用って書いてある。初心者用、とかドリルの他にねじ回しにも使えるって書いてあったのでモノタロウで買った。

さて、届いた電動ドリルで穴をあけてみた。今度はサックサクです！
楽しーい（≧▽≦）ｷｬｰずーっと開け続けたいぐらい（笑）
　とりあえずフラフープ2個分開けて、線が通しやすいようにミニニッパーで穴を拡張。ミニニッパーも役に立ってよかったよかった^▽^

　さてさてワクワクしながらLANケーブルをフラフープに通してテキトーな長さで切ってテープの端っこをはがしてみたところ・・・ん？なんか思ってた感じと違う。



まずメチャメチャ細いやん。そして ２ 本一組でネジネジになってる。さらにほっそーい銅線も横から出てるし。
線は細すぎてワイヤーストリッパーは全く役に立ちません。
ダメだ諦めよう・・・ORZ　←引き際が肝心（とはいえ1時間程格闘の末断念）

仕方ない、めんどくさいけど線をクルクル通すか。。で、あらためてエナメル線買おうと思ったけど、ちょっと待てよ。

　たしか全く使っていないロングワイヤー（＆ワニ口クリップ）があったはず。

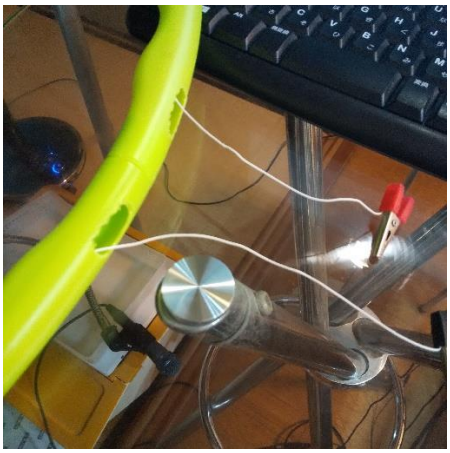
　ゴソゴソ探したらあった。いつか使えるんじゃないかとキッチンペーパーの芯に巻き付けて引き出しの奥に眠らせてました。これ使えるじゃん^▽^

　フラフープの円周に対して何周巻いたらいいのか調べられるページがあったので、それによると中波～短波で4周でいいらしい。

　線の長さがちょうどいい感じだったのでそのまま使うことにする。ワニ口クリップを取り付けてカラカラ～っとフラフープの中を通していく。

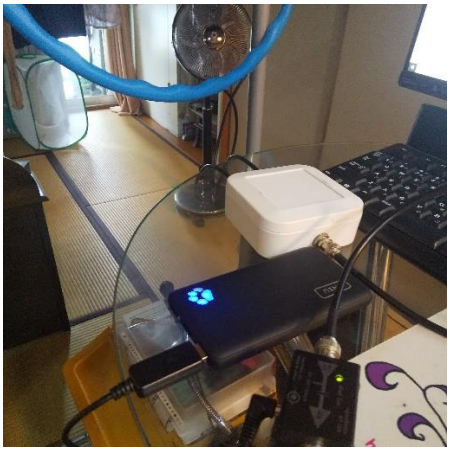
　うーん、めんどくさい＞＜；
　でも4周だから何とか終わった。

でけた。



◎モバイル ALAM のアンテナ作り
　ひとつ作ったら調子に乗ってきた(笑)
お次は ALAM をモバイル仕様で使うためのアンテナ。
フラフープ1周分の同軸ケーブル(コネクタ付き)。ABC・IT 担当の S 氏にいただいたもの(S さんいつもありがとうございます！！)。
スルスルと通して ALAM に接続して電源はモバイルバッテリーから取る仕組み。

　でけた。



これで IC-705 がお外で聞ける！！

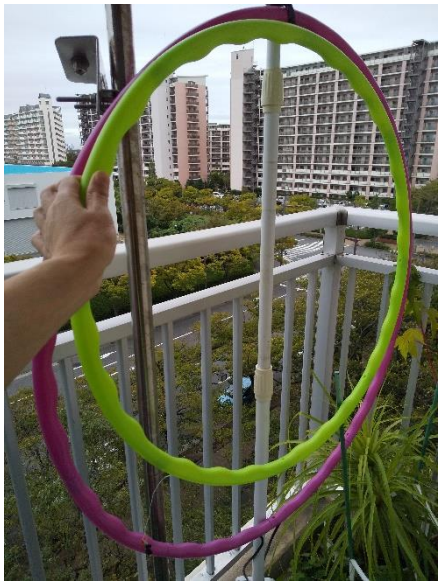
　スマホラジオにはどうかな。
前回ベランダの ALAM につないだらオバケだらけだった。
FM 聞くとすれば 303WA-2 か･･･しかしこのアンテナはたためないので持ち歩きには長すぎ。なのでやっぱりたためるロッドアンテナを使うことにしよう。

広い公園に行ったらこのアンテナでも結構聞こえるかもしれん。
　あと何日かしたら気温がぐっと下がって秋らしくなるとの予報なので次回の記事ではお外でラジオを聞いた話が書けたらいいなー（前回もそんなこと言ってたけど^^;）。

　それから PRAM（フープラみたいなの）のゲルマラジオの製作なのですが、はんだごて買ってまずははんだ付けの練習をしてみた。
　YouTube で小学生が「初めてだけどきれいに出来ました！」とか言ってるのをみて余裕ぶっこいてたのですが、全然うまくいかなかった（´・ω・`）ｼｮﾎﾞｰﾝ
　ビールの缶をつぶしてはんだを乗せるもなんか仁丹のようにまんまるになる。
何べんやっても・・・まんまる・・・。というわけでいったん挫折中。
しかしこのままはんだ付けが出来へんまま一生を終えてしまうのんか？（大げさ）
はんだ付けが出来たら世界が拡がるような気がする。
それにはんだ付けを避けてはちょっとした自作すらムリっしょ（なんとなくそう思う）。

なので予定ではこの後挫折から復活してゲルマラジオを作った！！という記事が書けるのではないかと思う。

そんなわけでウチには今まぁるいアンテナが 3 つあります。
余談だけど先日台風がくるっちゅ―ことで室内に取り込んだALAM用アンテナが自分で買ったフラフープよりちょっと大きかったことに初めて気がつきまして（笑）



台風来やんかったら永遠にわからへんかった。

（つづく）

日本酒ラベルギャラリー

(P.N.)TKD放送研究会

【はじめに】

私がBCLを始めたのは中学生の頃。放送局へ受信報告書を送り、受信確認証（ベリカード）を集めるのが私のBCLスタイルになっています。

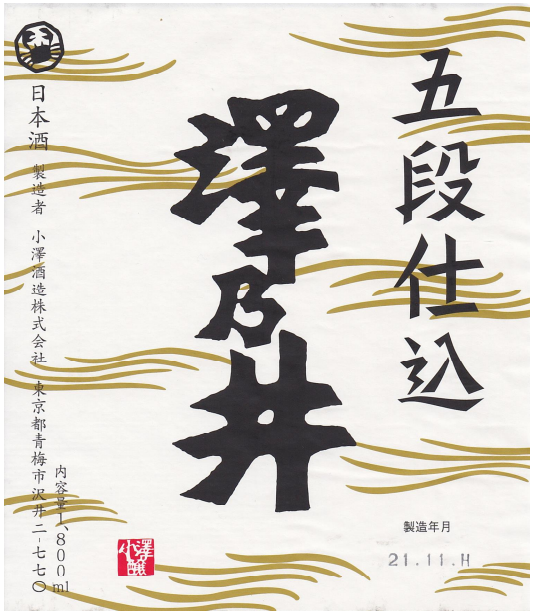
20歳を超えお酒を飲み始め、日本酒にどっぷりハマってしまいました。

日本酒は何を飲んでも同じというわけでは無く、それぞれに個性があり、季節や飲み方で様々に変化します。

酒瓶に貼ってあるラベルも様々。飲んだお酒の記念に瓶に貼ってあるラベルを飲んだ記念に集めてみました。飲酒確認証といったところでしょうか（笑）

【東京の日本酒】

東京都にはいくつかの酒蔵がありますが、その中で私がよく飲む小澤酒造のラベルを紹介します。

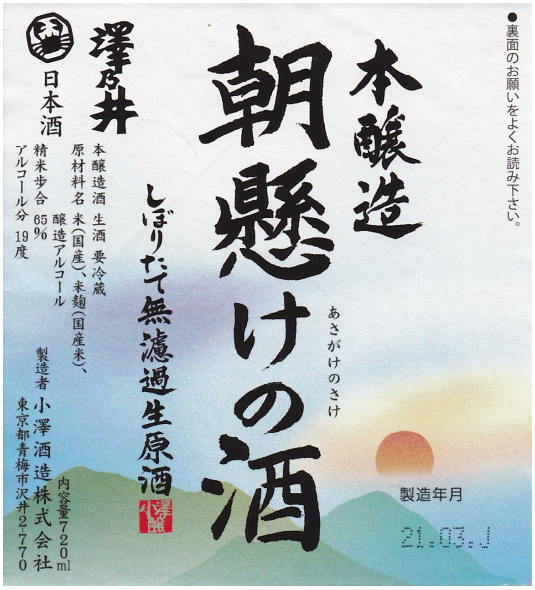


TOKYO JAPAN
特別純米
澤乃井
日本酒
製造者 小澤酒造株式会社 東京都青梅市沢井二-七七〇
内容量720ml
製造年月
22.09.H

夏
旬
純米 生酒
製造年月
21.04.T
澤乃井
奥多摩
之夏季
さわ音
日本酒
アルコール分:13度 精米歩合:65%
原材料名:米(国産)、米麹(国産米)
内容量720ml
要冷蔵
●できるだけ早めにお召し上がり下さい。●開栓には十分ご注意ください。●20歳になってから。●妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に影響するおそれがありますので、気をつけましょう。
創業 元禄十五年
製造者 小澤酒造株式会社
東京都青梅市沢井二-七七〇
4 981563 144706

日本酒
製造者 小澤酒造株式会社 東京都青梅市沢井二-七七〇
原材料名 米(国産)、米麹(国産米) 精米歩合 65% アルコール分 17度
澤乃井
しぼりたて
純米生原酒
製造年月
21.10.H
要冷蔵
お酒は20歳になってから 開栓には十分ご注意下さい
内容量720ml
4 981563 161000

要冷蔵
裏面をお読み下さい。
澤乃井
本醸造
一番しぼり
日本酒
原材料名 米(国産)、米麹(国産米)、醸造アルコール
精米歩合 65% アルコール分 19度 内容量720ml
製造者 小澤酒造株式会社 東京都青梅市沢井二-七七〇
4 981563 135360
製造年月
21.10.H


●裏面のお願いをよくお読み下さい。
本醸造
朝懸けの酒
あさがけのさけ
しぼりたて無濾過生原酒
澤乃井
日本酒
本醸造酒 生酒 要冷蔵
原材料名 米(国産)、米麹(国産米)、醸造アルコール
精米歩合 65%
アルコール分 19度
製造者 小澤酒造株式会社
東京都青梅市沢井2-770
内容量720ml
製造年月
21.03.J

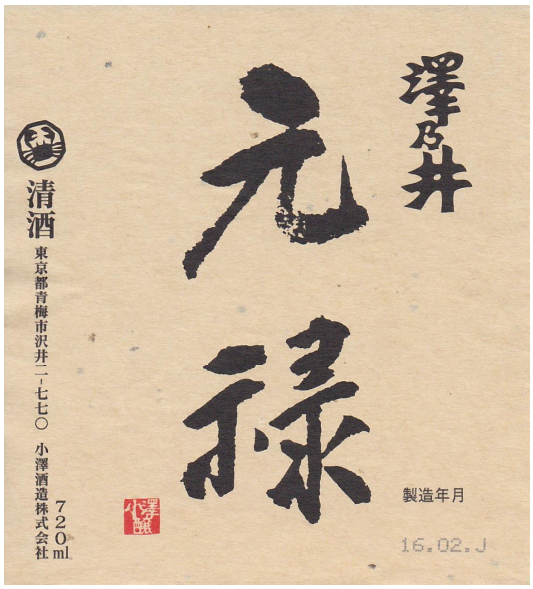
要冷蔵
日本酒
東京都青梅市沢井二-七七〇 小澤酒造株式会社
1800ml
澤乃井
しぼりたて
純米生原酒
製造年月
21.10.H

澤乃井
TOKYO JAPAN
純米大辛口
生酒
限定品
原材料名　米(国産)、米麹(国産米)
精米歩合　65%
アルコール分　15度
純米酒　要冷蔵　日本酒
4 981563 144386
製造年月
できるだけ早めにお召し上がりください。
飲酒は20歳になってから、開栓にご注意ください。　内容量　720ml
製造者　小澤酒造株式会社　東京都青梅市沢井2-770
22.04.T

清酒
澤乃井
吟醸
中汲み
令和一酒造年度
1081

澤乃井
純米生酒
SAWANOI
JUNMAI NAMAZAKE
要冷蔵
製造年月
21.08.N

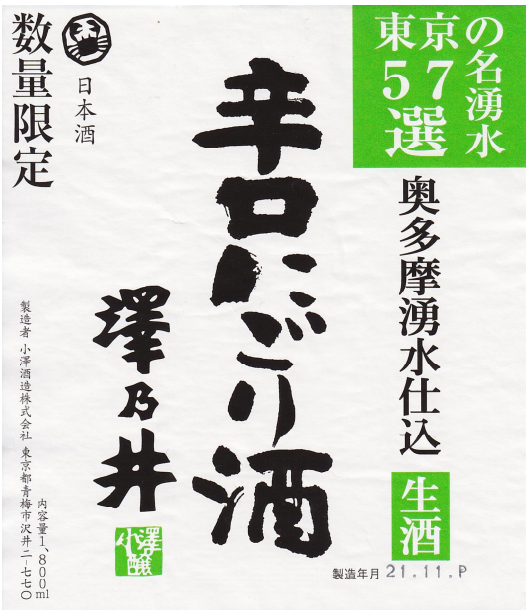
澤乃井
奥多摩
之秋季
しぼりたて
日本酒
創業
元禄十五年
製造者　小澤酒造株式会社
東京都青梅市沢井二一七七〇
アルコール分：15度
原材料名：米(国産)、米麹(国産米)
精米歩合：65%
内容量 720ml
秋
旬
元禄蔵熟成純米酒
製造年月
21.09.H


澤乃井
元禄
清酒
東京都青梅市沢井二一七七〇
小澤酒造株式会社
720ml
製造年月
16.02.J

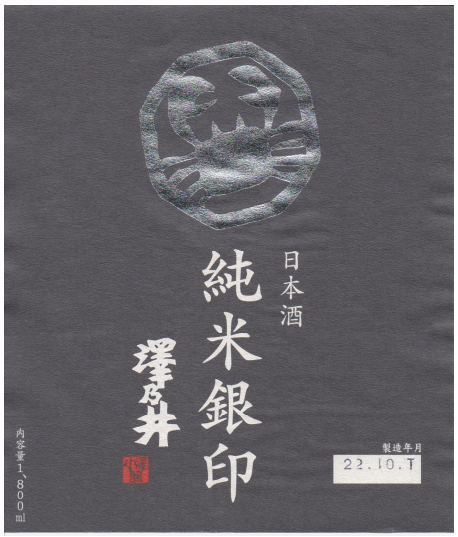
澤乃井
TOKYO JAPAN
純米吟醸生原酒
限定品
原材料名　米(国産)、米麹(国産米)
精米歩合　55%
アルコール分　16度
要冷蔵　生酒　原酒　日本酒
4 981563 155083
できるだけ早めにお召し上がりください。
飲酒は20歳になってから、開栓にご注意ください。　内容量　720ml
製造者　小澤酒造株式会社　東京都青梅市沢井2-770
製造年月

純米原酒
澤乃井
日本酒
製造者
小澤酒造株式会社
東京都青梅市沢井二一七七〇
純米酒 原酒
原材料名 米(国産)、米麹(国産米)
精米歩合 麹・掛とも65%
アルコール分17度
内容量720ml
4 981563 144553
飲酒は適度にたのしく。
開栓には十分ご注意ください。
妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に影響するおそれがありますので、気をつけましょう。
製造年月
21.05.H

澤乃井
奥多摩
之冬季
新しぼり
日本酒
原材料名:米(国産)、米麹(国産米)、醸造アルコール
精米歩合:55%
アルコール分:15度
内容量 720ml
創業 元禄十五年
製造者 小澤酒造株式会社
東京都青梅市沢井二一七七〇
冬旬
吟醸
第一号
製造年月
22.01.H

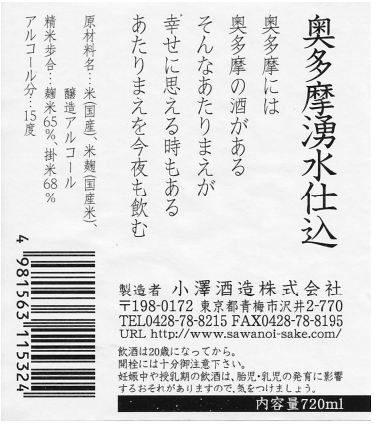

数量限定
日本酒
辛口しぼり酒
澤乃井
東京57選の名湧水
奥多摩湧水仕込
生酒
製造年月 21.11.P
製造者 小澤酒造株式会社 東京都青梅市沢井二一七七〇
内容量1,800ml

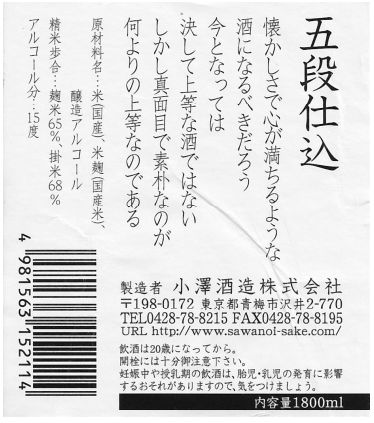
澤乃井
亀口酒
清酒
小澤酒造株式会社
東京都青梅市沢井二一七七〇
1.8L詰

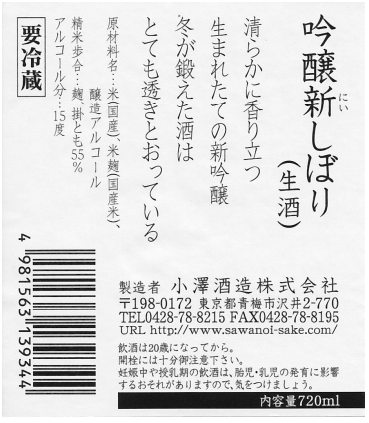

日本酒
純米銀印
澤乃井
製造年月
22.10.T
内容量1,800ml

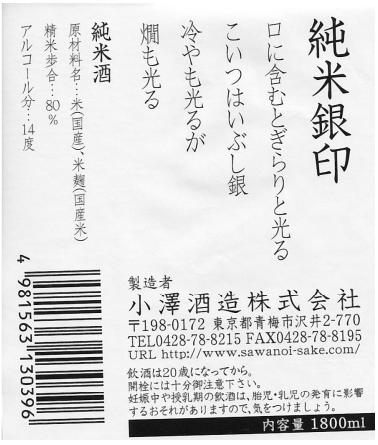
大吟醸
風
澤乃井
SAWANOI
PREMIUM DAIGINJO KOH
TOKYO JAPAN

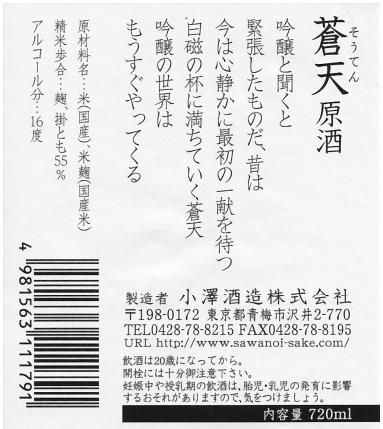
小澤酒造のレギュラー商品のラベル裏にはお酒についてのショートメッセージが書かれています。お酒の種類によって違い、お酒を飲みながら読むのも楽しいですね。

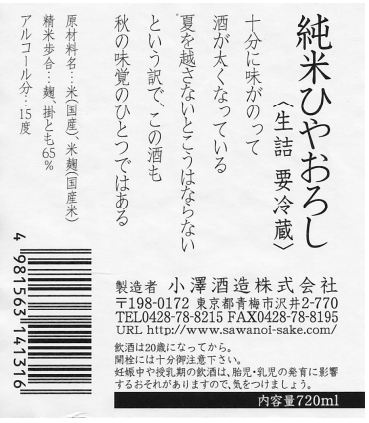


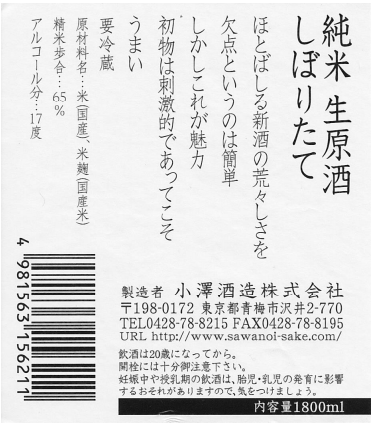












今回は東京の小澤酒造のラベルを紹介しました。
また機会がありましたら他のお酒も紹介させていただきます。

上越には旨い酒がある

朝 6 時 25 分、自宅の最寄り駅から電車に乗った。向かった先は上越市・高田の街である。このあたりだと妙高高原・赤倉温泉にはスキーを楽しみに行ったことがあるが、そこから少し北の高田の街は今回初めて訪れる。安直にも新潟と言えば米どころ、きっとおいしい日本酒が呑めるに違いないなどと思いながら、大阪駅から特急サンダーバードに乗り換えて北陸本線を進んだ。大阪を出発して京都を過ぎるまでしばらくは市街地や住宅街が続くが、琵琶湖の西岸に入ると車窓には広大な湖の景色が映る。とあるミーティングのペディションが行われるもこの辺りだ。敦賀を超えて福井を縦断し、金沢駅からは北陸新幹線に乗り換えた。金沢の街にもきっとおいしいお酒や食べ物があるのだろうと想像しつつ、ほんの短い乗り継ぎとなった。そこからは速いもので、アッという間に富山を抜け糸魚川を通り過ぎ、上越妙高駅に着いた。

新幹線改札を出ると正面に土産屋があり、その横に併設された飲食店を覗くと“利き酒セット（地酒 3 種＋おつまみ 1 種） 1,000 円”なんともそそられるメニューが見えた。しかし時間は未だ昼過ぎ。所詮駅ナカ、この先巡り合えるかも知れない“何か”のために、ここで呑んではもったいない気がしてグッと堪え、地元名物の“サンドパン”を買ってベンチで食べた。ふんわりとしたパンにたっぷりのクリームがサンドしてあり、どこか懐かしい感じがした。ここから先は“えちごトキめき鉄道”に乗って高田駅へと向かった。

上越妙高駅からほんの 2 駅で今回の目的地である高田駅に到着した。正直なところ、思いのほか小ぢんまりとした駅で驚いたと同時に、私の出身地の最寄り駅である備中高梁駅になんとなく似た雰囲気があり、ここでも懐かしい思いがした。駅前は土曜日の昼間“なのに”なのか“だから”なのか分からないが、ほとんど人通りがなく閑散としていた。ロータリーを超えて 50m ほどの十字路を右に曲がり、仲町通りという通りを歩いた。スナックやラウンジ、ナイトスポットというような、まさに夜の街の看板が並ぶ通りだ。建物の多くは 2～3 階建てで、道路に面した歩道の上には 1 階

と 2 階の間から軒先が突き出していて歩道を覆うような形となっている。雁木（がんぎ）造りと呼ばれるもので、積雪時に通路を確保するためのものだそうな。建物毎に繋がっていたり繋がっていなかったりしながら通りが続いている。雪深いこの地に住む方たちの生活のためのものであると同時に、私のような観光客を暖かく出迎えてくれるような一種のおもてなしの心を感じた。現在は秋のはじまりで、まだ昼間なので人通りはほとんど無いが、雪の降り積もる夜の通りを想い浮かべながら通りを歩いた。

雁木造りの建物が途切れそうなところで左に曲がり本町通りに出た。先ほどの通りと違い、商店街を連続して高い屋根が繋いでいた。これも一種の雁木なのだろう。和菓子屋や肉屋、ヘアサロンやブティックなどが並んでいて、こちらは“昼の街”という感じだ。その中にひときわ大きくて丈夫そうな建物があった。旧第四銀行の建物で、現在は“高田まちかど交流館”として使われているものだった。中に入ると天井の高い吹き抜けで、奥には重厚な金庫の扉が見えた。ベンチがたくさん置いてあり休憩できるようになっていて、その奥には高田の街の古い写真が展示されていた。その下に 1 台の古いラジオも展示されていた。木製ケースのそのラジオには“昭和初期のラジオ”という説明書きだけが添えられていた。この建物も昭和初期に建てられたもののようで、それにちなんだものだろう。当時このラジオからはどんな声が聴こえていて、どんな人が聴いていたのだろうか。今となっては知ることはできないが、想像するだけでもワクワクする。

高田まちかど交流館を出て再び商店街を歩いた。商店街が途切れて昔ながらの雁木がまばらに続くようになってからしばらく進むと“高田世界館”にたどり着いた。ここは日本最古級と言われる現役の映画館だ。今から100年以上も昔、明治時代末期に建てられたものだそうだ。車道から数十メートル奥に向かって狭い通路を進むと入口がある。入口には今日の上映スケジュールと共に「只今上映中　お静かに」という札が掲示されていた。ちょうど上映中の映画が

もう少しで終わりそうだったので、少し待って上映の合間に見学させてもらうことにした。木組みの天井のホールに赤い座席。座席はさすがに当時のままではないようだが、ノスタルジーを感じられる空間だ。上映の合間のため、映写室も見させてもらえた。2 台の映写機が並び、その間には真空管のアンプのようなものもあった。今では映写室の外の天井に設置されたプロジェクターも使われるようだが、この映写室はまるで“ニュー・シネマ・パラダイス”の映画を思い起こさせるような雰囲気が感じられた。

待ち合わせまでまだしばらく時間があったので、少し駅に向かって歩いたところにあった喫茶店で休憩することにした。ちょっと足を休めてコーヒーを飲むだけのつもりだったが、クレープが推しのメニューのようで、ついついコーヒーと共にミニクレープセットを注文してしまった。おやつ時をちょっと過ぎた店内には、高齢女性が 1 名くつろいでいた。しばらくすると甘い香りを連れて注文したセットが運ばれてきた。生クリームとキウイフルーツ、ブルーベリーにブルーベリーソース、間違いのない組み合わせだ。コーヒーは少しアメリカン寄りで物足りなかったが、少し歩き疲れた体にクレープの甘味が染みた。

少しくつろぎ過ぎたようで、もう少しで待ち合わせ時間になるところだった。結局高田の街中で昼間から呑める店にはたどり着かなかったが、レトロな街並みを散策して満喫できた。また来たいと思える街がひとつ増えた。

17 時に待ち合わせ場所に向かうと、既に他のメンバーは到着していた。全員集合したところで、予約していた海鮮ろばたの店へ入っていった。久しぶりに再開する BCL 仲間と一緒に上越の旨い酒と旨い肴を味わいながら、今宵はどんな話が聴けるだろうと思うと胸が高鳴った。

著：なんばなな

Imai Presents

2022年9月24日に「第4回にいがた上越BCLの集い」を開催したんだよ。

次回は 2023 年 9 月に上越市で行います。参加者じゃんじゃん募集します。
みんなで BCL の話をしましょう。みんなで BCL を盛り上げましょう。おいしいお魚とおいしいお酒が待ってます。

せきやま

編集部より：このイベントは秋葉原 BCL クラブ主催ではございません。新潟・上越の有志によるイベントです。

哀愁の秋葉原に電磁波が降るのだ。

せきやま☆れいわ

世の中には酒豪と呼ばれる猛者がいる。

俺がその女と知り合ったのは二十代半ばのことだ。偶然にも同い歳だった。何人かの仲間でよく新宿で飲んだ。その女はビールからウイスキー、日本酒となんでもござれであった。ウイスキーはロックでクイクイ飲んでいた。俺もカッコつけて真似をするのだがこちらがグラスの半分も飲まないうちにもう次の一杯というハイペース。とても付いていけない。日本酒も一升瓶を造作もなく空けてしまう。まさに「うわばみ」だ。

一度その仲間で岐阜県の長良川へキャンプに行った。夜は車座になっての飲み会だ。皆でバーボン・ウイスキーを飲んだ。当然あっという間に一本が空いた。そしてもう一本が空いた。飲み頭はやっぱりその女だ。まだまだ飲み足りないなというところで酒が切れた。時刻はもう20時を過ぎていたと思うが街中に行けば酒が手に入るだろうと捜索隊が結成された。俺たちは彼らが首尾よく酒を持ち帰ることを期待しながら待った。

そこでその女が面白いことを始めた。空になったウイスキーの瓶を胸元に入れ温め始めたのだ。10分ぐらいしてから瓶を取り出し蓋を開けてライターの火を近付ける。すると温められて瓶に充満したアルコールに灯が点いて瓶の底までネオンのようにぼわっと光った。酒飲みの間では有名な遊びのようだ。そんなことをしているうちに捜索隊が戻った。すでに閉まっていた酒屋に無理を言って酒を分けてもらったそうだ。俺たちはさらに酔って行った。

俺たちの飲み会はそのキャンプを境にフェードアウトして行った。楽しい時間は早く過ぎてしまうと言うことか。特に色っぽい話にはならなかった。今でもその女を思い出すことがある。俺は最後まで勝てなかったなあと苦笑した。お互い歳を取ってしまったが今でも飲んでいるのだろうな。女の笑った顔がぼんやり目に浮かぶ。

ギャラリーate
LION
STOUT
ALC 8.8% vol
Asahi
生ビール
Radio
Samanalay
🍺晚酌ビールと肴🥂
By えいみい

ギャラリーKURO

～DRAKE SPR-4はキャットタワーに最適にゃっ～

寒く成り炬燵をシャックに作りました、又シャックにクロちゃん
がやって来る様に成りました！
因みに炬燵の上掛けはミッキーマウスとミニーマウスです！

ウットリ・・・
とろ～ん

あとがき

これを書いているのは 10 月ですが、急に寒くなってびっくり。
今日はちょうちょを 1 匹リリースしたけど風が強くて可哀そうでした。
しかもあと２匹サナギがいる。しばらく寒くならないでほしいなぁ。

日が暮れると気温が下がっておでんと熱燗が美味しい季節になりました。
今号は９月末締切りで本の発売は 11 月。web 公開は 12 月。真冬ですね。
暖かくしてのんびり読んでいただけたかなぁ(ᵔᴥᵔ)

次回も皆様からの投稿をお待ちしております。
えぃみぃのラジオの話、次回も続きます。皆様からのシリーズものや連載ものなどもお待ちしております。最近食べた美味しいものとか、なんでもいいよ（笑）
(゜д゜)ﾊｯ!というわけで次号のお題は『グルメ』でいかがでしょう。
あーゆぼーわん No.9 は 2023 年 6 月発行予定です。
あ、投稿は**随時受け付けてますので**お題に拘らずどうぞ！
ほんじゃまた。えぃみぃでした。

あーゆぼーわん！！

ＢＣＬファンの交流誌『あーゆぼーわん』No.7
お酒の特集号（2022 冬）

発行日：　2022 年 11 月 1 日（大安）
編集人：　えぃみぃ（Radio samanalaya）https://www.radio-samanalaya.net
　　伊藤 晃（ABC スタッフ）

発行所：　秋葉原 BCL クラブ（ABC）
　　ウェブサイト https://www.abc50s.net/
　　Facebook https://www.facebook.com/groups/750942701933776

(C)秋葉原 BCL クラブ 2022

秋葉原 BCL クラブ